

警城時報

日六廿
印刷所 加納活版所
發行所 警城時報社
一部金貳圓 一月金五圓
廣告料 一行十二字 五十五行
日刊(日曜祝祭日)翌日休刊

古川小野氏の幹旋で 鮫川疏水實現 工費の不足金は 日曹會社で引受く

鮫川疏水幹線工事は工費に事となり縣の重大懸案であ
不足を告げたため行橋のつた鮫川疏水も愈々實現す
状態となつてゐたが、小名事となつた、縣から二十
濱町長小野晋平、植田町長五日白石技師が現場に出場
古川傳一の兩氏等は縣當局調査を開始し同日石田耕
の諒解を得て日曹會社の小野社長は上京、二十六日には
名濱工場建設を機とし中野坂井經濟部長が現場を視察
日曹社長と交渉の結果會社と組合との間で
側と組合側の歩調が一致し正式調印を行ふ段取りとな
不足金は會社側で負擔するつた。

縣下一の鮫川橋 明年度に竣功 幅七米延長四百米 工費三十五萬圓

工費三十五萬圓を投じ内務取得道路三百米、幅員七米
省第二國道改修事務所の手五十、鐵筋コンクリートの
で昨年四月着工した國道六モダン橋で六號國道に一美
號線植田町と錦村につなぐ
鮫川橋梁工事は鐵材使用制
限の結果一時工事中止を懸
念されたが鐵材配給がや
遅れる程度で工事進捗既に
第一年度下部工事を終了、
第二年度上部工事も三分通
り進行し遅くも明年六、七
月頃までには完成の豫定で
ある。同橋梁は延長四百米

死体漂着 七十七行員の

平市柳町居住七十七銀行平
支店內預金係員佐藤安代(三
三)君は去る二十一日午
後零時三十分頃四倉海岸に
於て水浴中行衛不明となつ
てゐたが、平市三丁目青年
團並に四倉青年團等は晝夜
士氏は第一線にあつて活躍
中であるが、兩度に亘つて
同日午後九時四十分頃本町
同町銃後會や國防婦人會、
郷土軍人分會等へ事業資金
催される。

戦死者に 戦線から香典

四倉町出身獸醫少尉片寄秀
士氏は第一線にあつて活躍
中であるが、兩度に亘つて
同日午後九時四十分頃本町
同町銃後會や國防婦人會、
郷土軍人分會等へ事業資金
催される。

内務省技師一行に 國道改良を陳情

内務省土木局和田、金子兩の關係市町村は宿舎を訪れ
技師は河合土木課長、阿隈舗裝工事促進を陳情した。
川工事主任長濱技師の案内兩技師は二十五日小名濱商
て二十五日國道六號線を視察、鮫川橋を視察、二十六
祭し同日は湯本町山形屋旅日は湯本平間道路、平神
館に投宿したが、勿來、久橋を視察した上仙臺市に向
の濱國道改良期成同盟會つた。

北海道の一女性が 橋本警部に感激

二十六日朝平署次席橋本警
部の處に一女性から
あなたの御親切のため自
殺を免れ現在では三人の
子供と共に只管更生の途
を辿つてゐます。感謝に
堪へません
といふ手紙が届いた。讀ん
で行くと

代りに金時計

二十五日夜四倉合同の乗合で居ても私生活を亂れて
自動車に乗つた酔漢が十錢でどうして公衆の前に出
られる、良心があるなら國旗
の下を通ることが出来ない
格百五十圓)を投げ出した
ので經營者大内昌吉君は驚
いて平署に届け出た、平
署で調べた處客は平澤前某
會社員と判つた。

非常時局と 國防婦人會

十二三歳の學生が毎朝朝豆
を賣り何ヶ月かで得た數圓
の献金、老母數年かゝつて
留めた數圓の献金、これら
の純真さを見、灼熱の戦地
に血を流してゐる皇軍の將
兵を思ひ、三万有余の英靈
を拜する時、自の獻金のた
め一ヶ月數百圓の金を妻を
伺、それと同義することが
出来るだらうか。道徳にみ
ても罪惡であり、國家非常
時局に照してこれ等の不徳
行為はどうなるであらう。
口に立派なことを云ひ、儲
けた金のその何割かを寄附
して社會を救済し聖人ぶつ

時計を盗む 内郷

村高坂菅原龜五郎方警城旅
磯住吉探炭夫田口里利(二
二)は去る六月三日同僚坂
本龜治君のクローム腕時計
を盗んだ事發覺二十六日平
署に檢舉された。

非常時局と 國防婦人會

十二三歳の學生が毎朝朝豆
を賣り何ヶ月かで得た數圓
の献金、老母數年かゝつて
留めた數圓の献金、これら
の純真さを見、灼熱の戦地
に血を流してゐる皇軍の將
兵を思ひ、三万有余の英靈
を拜する時、自の獻金のた
め一ヶ月數百圓の金を妻を
伺、それと同義することが
出来るだらうか。道徳にみ
ても罪惡であり、國家非常
時局に照してこれ等の不徳
行為はどうなるであらう。
口に立派なことを云ひ、儲
けた金のその何割かを寄附
して社會を救済し聖人ぶつ

十錢の自動車料の 代りに金時計

二十五日夜四倉合同の乗合で居ても私生活を亂れて
自動車に乗つた酔漢が十錢でどうして公衆の前に出
られる、良心があるなら國旗
の下を通ることが出来ない
格百五十圓)を投げ出した
ので經營者大内昌吉君は驚
いて平署に届け出た、平
署で調べた處客は平澤前某
會社員と判つた。

非常時局と 國防婦人會

十二三歳の學生が毎朝朝豆
を賣り何ヶ月かで得た數圓
の献金、老母數年かゝつて
留めた數圓の献金、これら
の純真さを見、灼熱の戦地
に血を流してゐる皇軍の將
兵を思ひ、三万有余の英靈
を拜する時、自の獻金のた
め一ヶ月數百圓の金を妻を
伺、それと同義することが
出来るだらうか。道徳にみ
ても罪惡であり、國家非常
時局に照してこれ等の不徳
行為はどうなるであらう。
口に立派なことを云ひ、儲
けた金のその何割かを寄附
して社會を救済し聖人ぶつ

非常時局と 國防婦人會

十二三歳の學生が毎朝朝豆
を賣り何ヶ月かで得た數圓
の献金、老母數年かゝつて
留めた數圓の献金、これら
の純真さを見、灼熱の戦地
に血を流してゐる皇軍の將
兵を思ひ、三万有余の英靈
を拜する時、自の獻金のた
め一ヶ月數百圓の金を妻を
伺、それと同義することが
出来るだらうか。道徳にみ
ても罪惡であり、國家非常
時局に照してこれ等の不徳
行為はどうなるであらう。
口に立派なことを云ひ、儲
けた金のその何割かを寄附
して社會を救済し聖人ぶつ

非常時局と 國防婦人會

十二三歳の學生が毎朝朝豆
を賣り何ヶ月かで得た數圓
の献金、老母數年かゝつて
留めた數圓の献金、これら
の純真さを見、灼熱の戦地
に血を流してゐる皇軍の將
兵を思ひ、三万有余の英靈
を拜する時、自の獻金のた
め一ヶ月數百圓の金を妻を
伺、それと同義することが
出来るだらうか。道徳にみ
ても罪惡であり、國家非常
時局に照してこれ等の不徳
行為はどうなるであらう。
口に立派なことを云ひ、儲
けた金のその何割かを寄附
して社會を救済し聖人ぶつ

女中さん入用

四倉町本町
柏屋旅館
電話十九番

頭にアイスクリームの車
押す女を見よ、この人達に
對して真心あるなら恥かし
いと思はないか、なぜ額に
汗し手に豆を出し働かない
のだ。蓄妾生活は止めよ。
非常時局、社會は働くもの
を要求してゐる。
職業紹介所は國營になつ
た、蓄妾生活をかなぐり捨
て、看護婦として戦地に行
くもよし職業紹介所に行け
ば悦んで家政婦にでも女中
にでも女工にでも世話する
であらう。その意氣があつ
て、戦地の大和魂のある日本
女だ、戦地の兵隊を思ふ時
蓄妾として紅白粉つけて寄
生虫となつてゐるのか、
毎日の新聞の兵隊の寫眞、
映畫の兵士をどんな眼で見
る、眼は節穴でない、覺め
よ、妾に飼われて居る哀れな
女性よ、世は非常時局だ。
蓄妾生活をかなぐり捨てよ
四、躍進平市國防婦人
會に訴ふ

平 驛 前
昭和タクシー
電話 三四〇三番

イウキサロン
男給の店
町田・平 (二五三電)

御引立ヲ乞フ
安田生命 代理店
井上茂作
平市五丁目
電話六六番

故障のラチオ
放送局指定相談所に
ラチオの故障の多い季節になり
ました。
修理は測定装置完備の弊店に
放送局指定ラチオ相談所
H K受信機配給所
富永ラチオ店
平 驛 前
電話四九六番

常磐線湯本驛
鐵道指定旅館
小瀧鑛泉
電話一〇三番

一、煉炭
一、豆炭
各種 特價販賣
薪炭大暴騰ノ折カラ御家庭ノ經
濟燃料トシテ御勵メ致シマス
平 驛 前
阿部石炭商店
電話三十七番

蓄膿症 根切薬 **快鼻湯**
本劑は幾多の藥劑あり雖他藥の及ばざる
良藥也。左の病症の方は一時も早く服用
され快癒せん事を御獎勵致します
蓄膿症、慢性急性鼻加答兒、鼻汁多加症
頭痛、肥厚性鼻炎に靈効あり。
其他鼻骨彎曲症並に中耳炎は偉大なる神効ありと賞
讃されて居ります
磐城國平市一丁目
快鼻湯製造元 **水野藥局**
責任製劑者 藥劑師 水野清一
電話六九九番

吸入用酸素 純度 99%
モノサシ
ハカリ
マ ス
体温器
寒暖計
回秤ノ取緒・錘糸・修覆致シマス
回寫眞機
材料一式
關内藥局
電話四〇番

外科・花柳病専門
入院隨意
平市六丁目
木村外科醫院
電話三〇九番

債券 賣買
金 融
實物一般 **多田井商店**
平市大工町
電話五九一
振替仙台一五三九

公債・債券
實物一般
三井質店
平市四丁目
電話六〇六番

獨特の珈琲 WME
紳士の喫茶店
グリン パツカス
サービス料一割 (外・拜訪)
平市銀座通り TEL. 720
女店員募集
▽年齢 十七歳位ヨリ
廿五歳位マデ
▽月給 初給四拾圓以上
漸次昇給
▽待遇 衣裳貸與金支給
▽何の氣苦勞もなく朝に
働ける固定給料です
▽眞面目に働きたい方
眞實な生活を望まれ
る方は御出下さい
懇切に御指導致します
吉田眼科醫院
平市紺屋町(電話六八番)

夜 診
腸胃 性病
胃腸病科 性病科
花柳病科 泌尿器病科
皮膚病科 肛門病科
門 專
院醫科 性病科
院醫科 性病科
(番七〇一電) 町南市平
療 問

和洋銅鐵金物問屋
金屋商店
諸橋久太郎
電話九番九九番
デニキ・タイヤ一部
電話六三三番